

北 河 内 会 報 自然愛好会

2021年12月10日No.112

北河内自然愛好会発行

事務局：大東市野崎 3-7-7

西畑敬一 方

ホームページアドレス：http://www.cc-net.or.jp/~ja3_aeh/3shizen/3-3kitakawati.htm

(本年度当初予定の次の3例会は、コロナ禍非常事態宣言延長により中止)

4月第422回例会 4/29 (木・祝) 「淀川・三矢ワンドの植物」(木村雅行) 中止

5月第423回例会 5/5 (水・祝) 「木津川河川敷の植物」(田中光彦) 中止

第424回例会 5/29 「淀川・城北ワンドの植物(ヤセウツボの群落等)」(田中光彦) 中止

また、以下の第422回、第423回、第424回例会は当初予定の日を変更して実施。

第422回例会「穂谷のキノコ観察」枚方市 2021年9月14日(火)

栗田泰子

怪しいお天気の中、珍しいイカタケが沢山出ているとの情報に、下野講師を筆頭に西畑会長、担当の田中さん、木村さん、長島さん、影さん、会員外で高石市から参加の三原さん、そして栗田の総勢8人の物好きが、予定を変更してのコースを傘を片手にゾロゾロキョロキョロ歩き始めたのが午前10時。

穂谷公民館前から急坂を上がり竹やぶに到着するまでに幾つかのキノコが見つかり、長島さん持参の素敵な籠に収まりました。そして...出ました！辺り一面に異様な臭いを漂わせる本体のイカタケが!! もみ殻やたい肥などに発生するとの講師の説明がありました。

ここでしばらく写真を撮る、じっくり観察する、辺りの竹やぶに入りキノコを探すなどに時間をかけた後少し先まで足を延ばしました。薄暗い竹やぶやブナ科の樹木の下に大小取り混ぜいろんなキノコが沢山見つかりました。下野講師の熱心かつ丁寧な説明に耳を傾けながらも目は”キノコ目”になり忙しなく探すという破目になり、遅々として前に進めません。

時間を考えて平久保手前で折り返す頃には雨も上がり、エノキの大木の所から右折し荒れた竹やぶを通過、ヤブミョウガやミョウガの繁みを抜けて棚田を通り沢沿いに振り出しの穂谷公民館に戻ったのが12時ちょうど。

公民館前で採集したキノコを出し講師が種類別に並べ替えて種名を書き記し、それぞれのキノコの説明をし終えて店仕舞いを終えたのが14時40分。

印象は一言。キノコは難解かつ面妖。

歩きながら講師がおおよその種名を教えて下さいましたが、キノコを新聞紙の上に広げて図鑑と首っ引きで調べると別種であったり、近縁の異なる種であったり、専門家でも顕微鏡で見ないと種名が確認できないもの等が沢山あり、菌糸から幼生、子実体と様々に変化するキノコの複雑さが実感できる同定模様でした。

確実に分かったのはイカタケ・キチャハツ・カサヒダタケ・コウジタケ・ケショウハツ・カレバキツネタケ・ヒメコナカブリツルタケ・シハイタケ・フクロツルタケ(猛毒)・モチゲチチタケ・トガリウラベニタケ・シラタマタケ・ヒメツキミタケ・ベニナギナタタケ・ニセキンカクアカビョウタケなど約30種程度。

キノコは入門以前にお手上げする人が多いですが、例に漏れない人物がここにも一人…。雨にもかかわらず催行して下さった会長と田中さんに感謝します。

◎参加者:下野義人(講師)、栗田泰子、影千恵子、木村雅行、田中光彦、長島照文、西畑敬一、三原真人(以上8名)

キノコ一覧 2021.9.14 枚方市穂谷

	9月14日キノコ穂谷		
1	ハラタケ科	カラカサタケ属	
2	ハラタケ科	シワカラカサタケ属? ・シワカラカサ タケモドキ近縁	新
3	ハラタケ科	クロヒメカラカサタケ	新
4	ハラタケ科	カラカサタケの仲間	
5	テングタケ科	フクロツルタケ	
6	テングタケ科	ヒメコナカブリツルタケ	
7	オキナタケ科	コガサタケ	枚新
8	シロソウメンタケ科	ベニナギナタタケ	
9	イッポンシメジ科	トガリウラベニタケ	新
10	イッポンシメジ科	イッポンシメジ属いろいろ	
11	イッポンシメジ科	キヌモミウラタケ	新
12	イッポンシメジ科	ケモミウラモドキ	枚新
13	ヒドナンギウム科	カレバキツネタケ	
14	ヌメリガサ科	アカヤマタケ属? ・コケイロヌメリガサ 似、しかしカサに粘性なし	
15	ヌメリガサ科	アカヤマタケ	
16	ヌメリガサ科	ヒメツキミタケ	新
17	アセタケ科	Symocybe 属	
18	アセタケ科	アセタケ属	
19	ホウライタケ科	ウマノケタケ	新
20	ホウライタケ科	ヒメホウライタケ	新
21	ツキヨタケ科	モリノカレバタケ	
22	タマバリタケ科	ツエタケ(広義)	
23	ウラベニガサ科	ウラベニガサの仲間いろいろ	
24	ウラベニガサ科	カサヒダタケ	枚新
25	イグチ科	コウジタケ	
26	ファルログステル科	シラタマタケ	
27	ツマミタケ科	イカタケ	
28	キクラゲ科	アラゲキクラゲ	

29	カレエダタケ科	カレエダタケ近縁種		
30	タバコウロコタケ科	アズマタケ(オツネンタケの可能性あり)		
31	シハイタケ科)	シハイタケ		
32	タマチョレイタケ科	カワラタケ		
33	タマチョレイタケ科	ウチワタケ		枚新
34	タマチョレイタケ科	ウズラタケ		
35	ベニタケ科	ケショウハツ		
36	ベニタケ科	チョウジチチタケ		
37	ベニタケ科	ヒビワレシロハツ		
38	ベニタケ科	キチャハツ		
39	ベニタケ科	ウスムラサキハツ		枚新
40	ベニタケ科	シロハツ		
41	ベニタケ科	クロハツ		
42	ベニタケ科	ヤブレキチャハツ近縁種	新種で和名無し	新
43	ベニタケ科	クシノハタケモドキ		
44	ベニタケ科	ヒナベニタケ		
45	ベニタケ科	ヤブレベニタケ ?		枚新
46	ベニタケ科	アカアザベニタケ(仮称) Russula maculata ?	未発表	新
47	ベニタケ科	ベニタケ属		
48	ベニタケ科	モチゲチチタケ		
49	ベニタケ科	チチタケ属・ヒメチチモドキ ?		
50	シロキクラゲ科	ハナビラニカワタケ		
51	キンカクキン科	ニセキンカクアタビョウタケ		枚新

注：新は北河内での初記録。枚新は枚方市での初記録。

第 423 回例会「天王山・小倉神社付近の植物」京都府大山崎町 2021 年 10 月 2 日（土）

田中光彦

朝から好天に恵まれ、10月とは思えないような暑い一日になるという天気予報なので、参加者が少ないのではないかと考えていたが、予想通りだった。集合場所の駅ホームから一旦駅の外へ出たところの広場で今日の担当者・栗田さんから簡単な説明があり出発する。

まずはほとんど日陰のない舗装道路の坂道を汗を流しながら小倉神社目指してひたすら上る。途中で磯田さんが上着を脱ぎランニングシャツ一枚になった。帰りの駅までそのまま、日陰の山道に入ると蚊が多いのに平気な顔でした。とても 89 歳とは思えないほどの元気さで、杖も持たず息も切らさず歩いておられた。杖を頼りに泣き言を言いながら歩く私は少し恥ずかしい気がした。路傍でまだ小さい実をつけたタンキリマメが沢山見られた。

やっと小倉神社の日陰に着く。境内ではイヌコウジュ、ヌスビトハギ、ノガリヤス、ミズヒキ、

シュウブソウなどが咲いていた。トイレ休憩を兼ねて一息入れると 11 時に出発。すぐに花はないがヤブハギの一群れが目に入る。さらに十数歩歩くとヌマダイコンの白い花が目飛び込んだ。今日の目玉植物だ。谷沿いのハイキング道路脇の群落を前に、今朝配られたオカダイコンとヌマダイコンの違いを記した紙片を出してもらい、少し説明する。それぞれが自分の手と目で確かめておられた。その後栗田さんから、これがナガバノイタチシダ、こちらがジュウモンジシダ、ハグロソウ（花）、シケチシダ、ナキリスゲ、ガンクビソウと説明が続く。タチツボスミレに混じってケマルバスミレもあると教えてもらった。

しばらくは谷沿いの日陰の道でいろんな植物を教えながらゆっくりと進む。ここのはみんなスタジイだと西畑さんに教えてもらう。幼木ながらたくさん見られた。ササクサ、ウマノミツバ、スズメウリ、ハシカグサ、ポントクタデ、ヒメタデ、アマチャヅル、イワヒメワラビ、オニカナワラビ、オオカナワラビ、オオキジノオ、イワガネソウ、ミゾシダ、ヘラシダ、シンミズヒキなどを観察しながら歩く。アリドオシという名札のついた木があり、たくさん見られた。確かに鋭い針は長かったが葉の形は明らかに違うのと樹形も違うのでオオアリドオシだろうと思った。その後ホソバオオアリドオシも出てきた。

橋を渡る道との分岐があり、ここから谷を離れての登り道になる。シハイスミレやツボスミレが出てくる。コバノガマズミとリンボクもこの辺からぼちぼちと見られるようになった。少し登ると道の右側に小屋があり、栗田さんによるとこの辺りの森の保全活動をしているグループの拠点だとのこと。この辺りから上では今まで見られなかった植物が顔を出す。ホラシノブ、コシダ、コハシゴシダ、ウラジロ、コバノイシカグマとシダに詳しい栗田さんの説明が続く。コウヤボウキはつぼみを付けていた。カラスザンショウとクサギが実をつけていた。コ克蘭も見られた。ニガイチゴの白い葉裏と茎を見ながらやっと尾根道に出る。12 時 50 分。今日の一番高い所で 305m と磯田さんに教えてもらう。ベンチに座って遅い昼食となる。

昼食後 13 時 15 分に天王山山頂を目指して出発する。後はほとんど下りの道だが、ここまでの距離よりは長い行程になる。道の両側は切り開かれて日当たりが良い場所が多く、帰化種も出てきてあまり見るほどのものはないので、距離をかせぐ。メリケンカルカヤ、ダンドボロギク、ヨウシュヤマゴボウ、アメリカセンダングサ、ニガイチゴ、所々にヌマダイコン、ソヨゴ、ヤマモモ、リョウブ、サジガンクビソウ、ナンキンハゼなどが見られた。途中で団子状にかたまったキノコがあり、西畑さんと長島さんによりナラタケモドキということが分かった。ツルリンドウの花、コバノガマズミの赤い実も見られた。クロバイもあった。

天王山の山頂直下で、正規の道を行く人と急斜面の近道を登る人と二手に別れて山頂に登る。14 時 10 分着。広場にはアベマキと思われるドングリが沢山落ちていてドングリ拾いをする人もいた。山頂で一休みすると今日の証拠の集合写真を撮り宝積寺を目指して出発する。直ぐにチチコグサが目に入ったが、後は目新しいものはなく、足元に注意しながらゆっくりと下山する。途中、旗立松跡の展望台で淀川の秀吉・光秀の古戦場を眺める。

宝積寺着 15 時 30 分。後は急な坂道を下ると直ぐに踏切で JR 山崎駅が見えている。そこで阪急で帰る人たちもいるので解散である。参加者全員紙おむつをしていてもおかしくないような老人会もどきの山歩きの日でした。皆さんお疲れ様でした。

◎参加者：栗田泰子、磯田一雄、影千恵子、田中光彦、長島照文、西畑敬一、波多野恵子（以上 7 名）

424 回例会「私市・大阪市立大学附属植物園での観察」交野市 2021 年 10 月 23 日（土）中野潤子

交野いきものふれあいセンターの「生き物と触れ合う楽しさ」を使って、私市の市大植物園において「何してんねん、なんでやねん。」で自然解説指導員の平研さん指導のもと、生き物観察会が行われました。植物園入口に 10 時集合という事でしたが、少し早い目に着いた岸和田からの 3 人組（岩井、川崎、中野）が西畑さんから「この川ではよくカワセミが見られますよ！」と話を聞いていたまさにその時、美しいカワセミが天野川を飛んでいきました。背中ブルーが朝のひかりを受けキラキラと輝き、その美しさに感動しました。幸先の良いスタートに「今日は面白いものが見られるかも！」とうきうき、ワクワクです。

10 時になり、それぞれが入園手続き（コロナ禍のため氏名や連絡先記入）をしたため、全員入園できたのですが、本来はまだ 10 名以上の団体は入園できなかったようです。そのため「あまり集まらないで！」と太田さんから注意を受けながら、水性植物の横を通り抜け、少し開けたところに集合しました。

平さんから「生き物と触れ合う楽しさ」というパンフレットをいただきました。そこには生きるために素晴らしい知恵と工夫を働かせているいろいろな動物の生きざまが書かれていました。その生きざまを「何してんねん、なんでやねん。」と問いかけて会話を交わしながらみていくと、今まで私たちが気づかなかった面白い返事をしてくれるというのです。「ケムシはそんなに毛をはやしているのはなんでやねん。」「ヘビはペロペロ舌を出しているのはなんでやねん。」「セミは大きな声で鳴くのはなんでやねん。」資料に目を通すと、普段私たちが何の疑問にも思わないこと、別に深くは考えたことがなかったことを面白おかしく解説されていました。

資料を見ながら平さんのお話をしばらくお聞きした後、園内を観察しながら歩きました。「落葉樹はなぜ葉を落とすのか、なんでやねんと聞いてください。必ず返事が返ってくるから！」と平さんはおっしゃいますが私はまだまだ修行が足りないのか、私には返事は帰ってきません。「寒さの厳しい冬は水分が凍ったり、水分が乏しく、十分吸収できずに水分不足で枯れてしまわないよう、自ら身を守っているから。また冬の間は日照時間が短く、葉をつけていても十分太陽光を得ることは出来ず、冬をうまくやり過ごすため」だそうです。そんな話を聞きながらも、私は足元に落ちている大きな木の実が気になりました。そばに近づいて見るとシナアブラギリでした。桜山を抜けポイント N に向かう途中は、シャクチリソバ（タデ科）の白い花とノコンギク（キク科）の薄紫が対照的で秋を感じました。ポイント N～O に向かうとヒヨドリバナ（キク科）が咲いていました。アサギマダラの好きな花です。マルバハギ（マメ科）の花も少し残っていました。チャンチンモドキ（ウルシ科）の黄色い果実が沢山落ちていました。中の種子には 5 つの目玉模様があります。先ほど入園した際、事務所でもこのチャンチンモドキを加工し、根付にしたものが 1 個 200 円で売られていました。コクサギ（ミカン科）はミヤマカラスアゲハの食草でコクサギ型葉序と言って葉が右左右と 2 枚ずつ付きます。

ポイント D～E は進行方向に向かって右側が日本産樹木見本園、左側が外国産鑑賞樹木園になっています。誰かがムクノキの黒い果実を見つけました。干しぶドウのような甘みがあります。皆さんがおいしいと言って食べている横で私は「ムクノキが先かムクドリが先か、どっちやねん！」と木に話しかけてみましたが、やはり私は修行が足りないのか返事は返ってきませんでした。誰かが頭の取れたタマムシの死骸を見つけました。すでに死んでいても体は美しく光っています。そこでまた平さんの「タマムシがキラキラ光っているのはなんでやねん？」「鳥はキラキラ光るものが嫌いなので、鳥に狙われないため。またタマムシは暑い地方の虫なので、熱を反射するため

す。」今年はずいぶんタマムシが多いそうです。また誰かがかなり弱ったオオスズメバチを捕まえました。またまた平さん「ハチは腰が括れているのはなんでやねん?」「敵を刺すとき、どちらの方向へも素早くお尻の先の針を向けられるように。」またスズメバチはまず人を噛んでから刺すそうです。少し小高くなったところに複葉の木があったので何の木か下に行ってみるとムクロジ(ムクロジ科)でした。落ちていたムクロジの果実は面白い形をしています。中の黒い種は羽根つきの羽の黒い玉に使われました。イタヤカエデ(ムクロジ科)もありましたがまだ紅葉には少し早いようです。ハート型のカツラ(カツラ科)の葉は甘いカラメルのような良い香りがします。ツガ(マツ科)の小さく可愛い松ぼっくりが落ちていました。ところどころに落ちている赤い実はハナミズキ(ミズキ科)の果実でした。今は使用禁止になっているトイレの近くにはホシダがたくさんありました。

ポイント E 前の池の中に名前のわからない針葉樹が 1 本ありました。名札がかかっていたのですが、名前は消えていました。池のふちに植えられたサツキ(ツツジ科)にはタンキリマメ(マメ科)がきれいに紅葉していました。アキアカネが私の手にとまりました。きっと真っ黒でシミだらけの私の手は木の枝に見えたのでしょう。

ポイント E~F は海岸型のトベラ(トベラ科)やウバメガシ(ブナ科)がありました。一段低くなったところにイノシシの菟場(ぬたば)がありました。ハクサンボク(レンプクソウ科)は赤い果実が美しく、つやのある厚い葉です。ハクウンボク(エゴノキ科)はフカフカの毛があり、丸い葉です。ベニシダ、カクレミノ(ウコギ科)もありました。

ポイント F から左折は 5 月の大雨の影響で閉鎖中になっており入っては行けませんが、奥の土手にはカワセミの巣があるそうです。深さ 1 メートルほどの横穴を掘っており、天野川からかなりの距離があるにもかかわらず、餌を運んで子育てをしていたようです。ネチャネチャしたササクサ(イネ科)、ガンクビソウ(キク科)やコウヤボウキ(キク科)の花。ミツデウラボシ、オニカナワラビ、フモトシダなどのシダ類がありました。ミツデウラボシとはいってもなかなかミツデにはならないのですが、ここではきれいなミツデが見られました。ヤブミョウガ(ツユクサ科)の果実はまだ緑で、キツネノマゴ(キツネノマゴ科)もピンクの花が咲いていました。

ヒノキ、モミ、ツガ、サワラなどの高木を見ながらのポイント R では下草にウラジロ、ゼンマイ、コシダなどのシダのほか、コ克蘭(ラン科)、ナツフジ(マメ科)の果実、ヒサカキ(ツバキ科)がありました。

少し開けたところで昼食をとりました。目の前にはとても美しいクサギ(シソ科)の木がありました。遠くから見るとまるでガマズミ(レンプクソウ科)の果実のように真っ赤だったのですが、近づいて見るとクサギだったので驚きました。どのような鳥が果実を食べているのか調査しているようで、カメラが備え付けられていました。昼食後はカラマツ(マツ科)やヤブムラサキ(シソ科)の横を通り、午前中の池(ポイント Q)に出てきました。

午後はトイレに急ぐ人もあり、観察もそこそこに、午前中にゆっくりと通った樹木園からおすすりめコースに右折しました。このあたりにはツリガネニンジン(キキョウ科)が植えてあり、花が咲いていました。すでに果実になっている株もあり、両方の観察が出来ました。コブシ(モクレン科)やカラタネオガタマ(モクレン科)はすでに来春の花芽ができ、毛におおわれています。マメナシ(バラ科)交雑種と書かれた看板の木がありました。小さなナシになっていましたが食べられるのでしょうか?私は来春の花をぜひ見たいと思いました。

最後はユリノキ広場に集合しました。大きなユリノキ(モクレン科)には果実が沢山実っていま

した。良いお天気に恵まれ、上り下りの少ない植物園という事もあり、いつもより参加者も多かったことと思います。最後の締めのご挨拶を本日の講師である平さんをお願いしました。事故にあわれ、頭を打たれたこと。入院、リハビリされていたこと。それ故に「何してんねん、なんでやねん。」の観察会が当初の計画より遅れたことなどいろいろなお話をお聞きしました。お年をお聞きし、びっくり！これからもますますお元気で、「何してんねん、なんでやねん。」の第2回学習会も楽しみにしています。頂いた資料も何度も読み返し勉強したいと思います。平さん、本日は本当にありがとうございました。

◎参加者：稲原良三、岩井幸恵、磯田一雄、榎本知恵子、太田理、大津由紀子、川崎節子、日下富貴子、鈴木永子、妹尾昌弘、平 研、高見君江、田中英明、東郷弘子、長島照文、中野潤子、中町芥子、奈良敏子、西尾フミ子、西畑敬一、波多野恵子、発ひとみ（以上 22 名）

第 425 回例会 「大和川の川原の石」 柏原市 2021 年 11 月 23 日(火・祝) 田中光彦

集合場所の JR 大和路線の高井田駅に着くと、今日の担当で案内且つ解説・指導していただく西村先生が既に待ち構えておられた。線路の上にある駅の改札口で、冷たい風がピューピューと吹き抜ける場所だったのに石のように固い顔でなくにごやかな笑顔で迎えて下さった。10 時過ぎまで待ってから出発する。遅れて来られた二人と合流し総勢 12 名で駅から直ぐ近くの大和川の河川敷の川原まで歩く。

大和川右岸の近鉄大阪線の鉄橋の下近くに下りて西村先生からプリントを頂き説明を受ける。ここでは 8 種類の石が見られるとのことだが、その中の安山岩にはサヌカイトと呼ばれるものとザクロ石（ガーネット）を含んだものがあるという解説に、私もなんとかこの 2 種類を見つけようと思った。それぞれ思い思いに散らばって拾った石を川の水で洗う人やハンマーで石を割ってみる人もいて、何個か手にすると西村先生の所に尋ねに行く。これは砂岩、これは泥岩、これはチャート、これは人工物などという答えが返ってきて、なかなかサヌカイトや玄武岩は見つけれない。そのうち私がサヌカイトを見つけ、山田さんも大きなサヌカイトを見つけれられて、割って鋭いエッジの部分を含む欠片を皆さんにプレゼントされておられた。草むらからヌートリアが川原に出てきて愛嬌をふりまく一幕もあった。

川原は冷たい風が強く吹き寒いので、その場での昼食の予定を変更して引き上げることになり、道々植物などを見ながら駅の反対側にある高井田横穴公園に移動し、そこの一角の陽だまりで昼食となる。昼食場所にはなぜか古びた十数個の土のう袋があり、破れて中身が見えた。その中身というのがすべて大小のサヌカイトだったのには驚いた。各自形の良いものや特徴のよくわかるものを物色しておられた。

午後はこの公園の横穴式古墳の間を巡る散策路を紅葉を愛でながら歩いた。ただ歩くのではなく、ちゃんとコースの中に素敵な石が探せる道を選んであったのだ。西村先生の案内には頭が下がる思いでした。その素敵な石というのは、川原ではみつけれなかったガーネット入りの石で、自分の誕生石だという人もいて熱心に探して見つけては笑顔をこぼしておられた。それぞれ収穫に満足したところで移動し、古墳の見学をしながら資料館も見て公園の入り口に行き、そこで解散となった。駅は目の前だ。午後 2 時過ぎだった。

川原以外では風もなく暖かい冬日の楽しい一日だった。帰りの電車では解散の時にいただいた、今日の 8 種類の石を組み合わせた絵合わせクイズを解きながら帰った。

◎参加者：影千恵子、木村雅行、鈴木永子、高見君江、田中光彦、長島照文、中町芥子、西村寿雄、

発 ひとみ、山田 晃、篠田長政、西村徹也（以上 12 名）

《投稿》「湯川 閑さんとの出会い」 田中光彦

僕が初めて湯川閑さんと顔を合わせたのは、イエス・キリストさんがお生まれになってからちょうど 2000 年後のことです。そう、あれは西暦 2000 年 3 月 11 日のことで、場所は大阪府立青少年会館でした。大阪府青少年活動財団主催の東マレーシア・エコツアーの説明会の会場です。このエコツアーの参加者は 25 名でそのうちのほとんどが小中学生で、年寄組と言ってもいいのは湯川さんと私の二人だけでした。私はまだ 50 代の現役でしたが、湯川さんは既に定年退職されて余暇を楽しんでおられたようです。その後 3 月 25 日から 6 日間のボルネオの旅の間、ホテルも同室で話し相手もちょうど最適という訳で、すっかり親しくなりました。仕事の関係で長くイギリスにおられたようで、湯川さんは英語がペラペラで、英語もできない私は随分と助けてもらいました。イギリスで鍛えられた紳士で奥ゆかしい湯川さんは、ガサツな私を相手によく我慢して付き合ってくれました。

湯川さんはもともと昆虫少年だったそうで、旅から帰ると 4 月のちょうど良い季節でもあり、それから時々二人で近場を歩き、昆虫と植物を見ながら話をするようになり、とうとう自然愛好会に入ってもらえることができました。湯川さんは白髪ながら立派な体格で、とても体力に優れた人でした。ある時二人で穂谷を歩いたおり、昼食に二人ともおにぎりを持っていたが、湯川さんは私が二つしか持っていないことに驚き、湯川さんが四つも持っていることに私は驚いたことがあります。やはり元気の秘密は健啖にあるように思いました。その後湯川さんには何回か例会の担当者として淀川を案内していただきました。

彼は自然環境の改善、特に水質の改善に力を注いでおられ、一人で胴長をはいて川の清掃に取り組んでおられました。またカヤツリグサ科のマツバイに水質浄化の力があることを知ると、あちこちでマツバイを探しそれを増やす努力も試みておられました。

僕はいつも心の中では湯川さんのことを親しみを込めてシズカちゃんと呼んでいますが、シズカちゃんの奥様も素敵で、彼は幸せな人なんだと羨ましくも思いました。それがこの度肺をやられたとかで入院して 1 週間もしないのにあちらに旅立たれたと聞いてびっくりしました。あの元気な人が。本当に人生はわからないものです。心からご冥福をお祈り申し上げます。僕の中ではいつまでもシズカちゃんは元気なままで笑顔でいます。

《会員交流コーナー》*****

<ナナミノキのコブの正体>分かりました。岡山県倉敷市の重井薬用植物園の URL に次のようがありました。本種の枝先にはしばしば丸い果実のようなものができることがあります。これはモチノキの仲間に寄生するイヌツゲタマバエという昆虫の幼虫が作った「虫こぶ(虫えい)」で、ナナミノキメタマフシと呼ばれるものです。これで一応問題は解決したかのようです。ナナミノキには今もかなりの数の「コブ」がありますので、継続観察中です。(4/20 磯田一雄)

<白い花のシロバナマンテマ>シロバナマンテマと言えは普通思い浮かべるのは淡紅色の花だと思えますが、先日の 5 月 6 日に門真運転免許試験場の前のケヤキ並木の下に、白い花のシロバナマンテマが 100 株以上生えているのを見ました。珍しいと思ったので報告します。今が真っ盛りで、とてもきれいです。(5/10 田中)

<ナガエガラシですか？>昨日、阪神高速の下を散歩していましたが、ナガエガラシと思われる植物がイヌカキネガラシと混雑して生えていました。昨年、木村さんや田中さんにイヌカキネガラシと同定していただいた場所です。画像を見て頂ければ分かると思いますが、今度は明らかに柄が細いです。いかがでしょうか。ホソエガラシと思われるものは近所でもありましたので、守口（阪神高架下）にも確実にあります。また、守口のほうにはカキネガラシ（スーパーの植え込み）も生えていました。（5/14 北川）

<飯盛山>権現川のウラシマソウは、権現の滝へ行くハイキングコースでは、まだ確認していませんが、その手前自動車道路の終点近くの山側にかなりありますね。今日は飯盛山の上でアマドコロとナルコユリの両方があるらしいことを見てきました。茎の角の有無と葉の形の違いで見分けられる様です。アマドコロは花が終りかけていますが、ナルコユリはこれからのようです。飯盛山は山頂付近で、名前のわからない花が二つほどあります。一応写真は撮ってあるのですが、ナナミノキも見てきたのですが、「虫こぶ」にはほとんど変化がありません。（5/15 磯田）

<門真にキクノハアオイ>今日、雨が止んだので午後になって門真市まで自転車で走りました。実は15日に鈴木さんからこれは何かと質問があり、写真を見るとキクノハアオイでした。枚方淀川で木村さんに教えてもらって以来の情報です。行って見ると歩道の隙間に2株が根を下ろし広がっていました。全体に小さなものなのによくこれを見つけられたものだと思います。連絡していただいたことに感謝感謝です。（5/17 田中）

<何の花でしょうか？>最近山頂付近でみごとに紅葉している樹を見つけました。葉の形からするとカエデのようです。また、頂上の手前の展望のきく休憩所の登り口付近で、笹の陰になっているアマドコロとナルコユリの区別が私にもやっとなりになりました。名前のわからない花の一つは、頂上小楠公像のすぐそばで見た白い菊の花です。図鑑で見るとユウガギクのように見えますのですが、花期が秋とされていますので合いません。NHK・FM 大阪電波塔の傍の、千畳敷から南に下るところに、きれいな青紫の花の群れを見つけたのですが、何か見当が付きません。教えていただけたら幸いです。（5/18 磯田）

<回答>白い花の植物のほうは、帰化植物のフランスギクではないでしょうか、他方、青い花のものは、園芸植物のシラーではないでしょうか、最近逃げ出したのがよく散見される様になりました。一度ご確認ください。（5/18 西畑）

<ナナミノキ実ではなく虫こぶ>会報111号に、磯田恵のナナミノキの観察記録を載せていただき感謝いたします。これは「実」ではなく「虫こぶ」らしいということが最近分かりました。モチノキの仲間に寄生するイヌツゲタマバエという昆虫の幼虫が作った虫こぶ（専門用語では「虫えい」）で、ナナミノキタマフシと呼ばれるものだそうです。木や草の枝や葉にこういう虫こぶのできる例はかなりあるようです。（5/20 磯田）

<セイヨウヒルガオ>高見さんからセイヨウヒルガオが咲きだしたという情報をいただいたので、今日門真市まで自転車で見に行ってきました。いままでセイヨウヒルガオといえば枚方でも四條畷でも白花でしたが、ここのは淡いピンクの花でした。ヒルガオより花が小さく、葉は分厚く、苞葉は花からはなれて下の方についています。道路と農地の境界のフェンスに絡みついていて、近くの他のフェンスにもたくさん見られ、合わせれば100株以上はありました。もっとも皆クローンかもしれないですが。ピンクのセイヨウヒルガオも可愛い感じがしました。（5/26 田中）

<顕微鏡貰ってくれませんか>室内での観察に使える顕微鏡を必要とされる方はいませんか。以前会員だった磯田恵（あや）が使っていた顕微鏡が残っています。恵がどんなふうに使っていたか知

りませんが、私や家族には使う見込みがありませんので、欲しい方がいらっしゃいましたら、喜んで差し上げます。実物は以下の写真をご覧ください。写真の下に簡単な説明があります。(5/28 磯田) (後日欲しい方に差し上げられました。)

<穂谷キノコ観察会>来週の木曜日・7月8日は予定通りキノコ観察会を実施します。写真は29日に北田原で10株以上見たアカダマキノガサタケとその幼菌です。スープにすると大変美味しいようで、栽培もされているそうです。今が旬ということで、来週も出会えることを期待しています。

(7/1 田中) (7月の観察会は中止になりました)

<セミの抜け殻>今朝、自宅の庭でクマゼミの抜け殻を4個見つけました。たまたま今朝見つけただけですが、おそらく一昨日、昨日に出てきたものではなく今朝出てきたのではないかと思います。しかし、まだ鳴き声は聞いていません。皆さまの所ではいかがでしょうか。もうセミの鳴き声を聞かれたでしょうか?? (7/9 田中)

<回答>セミの幼虫は夕方に地中から出てきて、夜のうちに孵化して朝に飛び立ちます(鳥が寝ているうちに)。鳥からの被害を防ぐためです。その抜け殻は昨日の夕方に地中から出てきて夜のうちに羽化して、今朝飛び立ったのでしょう。野生の生き物は、他のものから食べられるという宿命を負っています。だからそれぞれに自分が食べられないために素晴らしい知恵と工夫を働かせながら生きています。このセミの羽化もその一つですね。(7/9 平) 岸和田市の中野です。私は今朝初めてクマゼミの声を聴きました。十数年前から、鳴き声を初めて聞いた日を記録しておりますが、毎年7月7日から7月9日の間です。暑い年も寒い年も、雨の日も晴れの日も、毎年毎年なぜわかるのか不思議です。(7/10 中野潤子) 長尾家具町の路上で抜け殻をひとつアスファルトの歩道で見つけました。鳴き声はまだ聞いていません。(7/9 長島照文) クマゼミ、家の長尾の近所で鳴き初めです。(7/10 長島)

<イカルの嘴を彫りました>堅い木の実を嘴でカリッと噛み割るその力、どのようにして出るのか不思議で調べてみました。彫刻では表現できませんでしたが、嘴の内側に力学的に微妙なカーブがあり、堅い木の実を割る力が出るような構造になっています。生き物が生きるための素晴らしい知恵と工夫。頭が下がります。(7/9 平)

<ウグイスの本音>今日は格別蒸し暑いですね。ここ四條畷では、まだクマゼミの声を聴いておりません。もっともこの一週間ほど悪天のため山の方へ行っていないので、そのためかもしれません。鳴き声で思いだしたのですが、6月1日快晴の日、飯盛山で、本当に久しぶりに、「ホーホケキョ」というウグイスの声を聴きました。「梅の小枝でうぐいすが、春が来たよと歌います。ホーホー、ホケキョ、ホーホケキョ」という子どもの歌にある通りです。もっともややつづまった感じはしましたが。ウグイスの声には山で良く出会うのですが、最近では初音の頃からずっと「ホー」のない、「ケキキョ、ケキキョ……」というせわしない鳴き声ばかり聞かされていまして、やっと「本音」に、——それもたった一回——たどり着いた感じでした。ウグイスの鳴き方が昔と変わってきたのでしょうか。それとも地域や季節などに関係があるのでしょうか。(7/10 磯田)

<ホシゴイ彫り>ホシゴイ(星五位) = ゴイサギ(五位鷺)の幼鳥を彫りました。ゴイサギ(五位鷺)の名前は平家物語に由来するという微かな記憶があったので、学生時代に買った文庫本の平家物語を本棚から探して読み返してみたら、ありました。「後醍醐天皇が、庭の池にいたサギを六位の家来に捕れと命じられ、家来が捕ろうとしたら、飛び立とうとしたので「天皇の命令だ」と呼んだら大人しく待って捉えられたので、天皇はこのサギに五位の位を授けられた」と。ホシゴイという名は、身に白い星のような斑点が多数あるのでこの名(星ゴイ)がついています。(8/10 平)

<回答>NETでゴイサギ由来をみると、Wikipediaの脚注に詳しく載っていて、これをみると醍醐天皇と載っていました。(8/10 渡辺晋一郎)

<ジャコウアゲハ：西畑、写真>昨年我が家でもジャコウアゲハが100匹ほど巣立って行きました。ウマノスズクサとアリマウマノスズクサ、海外のウマノスズクサの仲間の数種類植えているのですが、ジャコウアゲハはアリマウマノスズクサが好きなようで、他のウマノスズクサには見向きもせず、アリマは茎までかじり、丸坊主にしてしまいました。ある植物園でも同じ結果だったので、虫にも大好物がある様です。(8/20 中野) ウマノスズクサですね😊よく見つけましたね!! (8/20 田中)

<緋色茸白化>以前ヒイロタケを教えていただきました。以後ヒイロタケに出あうたびに注目しているのですが、5月20日に飯盛山を目指して三好道を上がっていたところ、ヒイロタケの見事な群生の枯枝を見つけましたので、写真を撮っておきました。約3か月後の8月11日に再度見ましたところ、大部分が白化していましたので、面白いと思って写真に撮りました。こんなことは何でもないかもしれませんが、私には印象深かったのでお知らせいたします。(8/22 磯田)

<何の花?>今日門真市を自転車で走っていたら、道路横の畑でハヤトウリの横にこんな花が咲いていました。ツル性で花に比べたら意外と小さな葉でした。なんでしょうか。野菜の一種ではないかと思いますが初めて見ました。(9/8 田中)

<イカタケ>モニ1000のチョウの調査で本日穂谷を歩いたのですが穂谷公民館から10分足らず登りきったところに炭窯の跡がありますが、その前にたい肥のようなものがまき散らされています。その中にイカタケが叢生しています。まだ、球状の未熟菌が大分あるので当分は楽しめそうです。4週間ほど前に枚方しぜんハイキングのメンバーが発見していたものですが今日もまだ元気でした。私は今日が初めてでした。(スッポンタケ目アカカゴタケ科イカタケ属イカタケ) 興味のある方はお出かけくださいまし。今日は5年ぶりにゴイシジミを捕獲観察できました。目的外ですが、ショウリョウバッタモドキも偶然観察できました。(9/10 長島照文)

<教えて>本日長居公園近くの荻田北小学校へ調査に行きました。2種分からない植物がありました。分かる範囲で結構ですので教えてください。

○ツユクサ科?: 葉、茎はイボクサにそっくりですが、花の色が中間色の赤紫で、イボクサより丸かったです。持ち帰って見ると花がしおれてよくわからなくなりました。全体は30センチくらいで、花の大きさはイボクサかそれよりほんの少し小さいと思いました。上部の花序はもう実になっていました。咲いていたのは湿気のあるところで、アメリカタカサブロウに混ざって咲いていました。○タデ科: サナエタデ? 托葉鞘の縁毛がないことや、葉の脈上や淵に短毛が生えていたので、サナエタデかと思ったのですが。学習園(畑がある)に2株だけ生えていたのでまだ若い方を採取しました。以上ですが、なにか手がかりがありましたらよろしくお願い致します。(9/23 北川)

<教えて>本日、城北通りを歩いていましたら、知らない植物を見つけました。分かる範囲でいいですから教えてください。

○イネ科: オヒゲシバ? 空き地に1株しかありませんでした。過去に見たオヒゲシバのような気がするのですが。全く不明種: 園芸種でしょうか? 城北通りの街路樹植え込みのそばに1株(だと思ふ)でした。根ごとぬこうと引っぱりましたが分枝のところで根が出ているのかそこで切れてしまいました。本日は、生江小学校(旭区)の調査でした。近くの墓地で、トキンソウが生えていました。20年ぶりくらいで見ました。また先日行きました西中島小学校では以前同定していただいたハシカグサモドキが咲いていました。畑にあったので、野菜の苗とかについてきたのでしょうか。(10/5 北川)

＜ミョウガの実＞今日ミョウガの実を入手しました。昨日採集されたものです。珍しいと思うので写真を載せます。果実がパツクリと三つに割れて内側の赤い部分が見えます。その赤いところに白く見えるのが種子です。種子の数は3個のように思いますが、痕跡からいうともう少しありそうな感じですが。表面の白い部分を除くと中に黒い種子が入っています。このミョウガの実は10月1日に和歌山県で見つかったものです。この季節がミョウガの実の季節ということになるようです。皆さんももっと身近な所で探してみてください。まだあると思います。(10/11 田中)

＜スズメバチの単眼複眼＞私市植物園観察会、みなさんお疲れ様でした。95歳の平さんの「何してんねん、なんでやねん」という目で見える生き物観察、勉強になりました。ありがとうございました。

さて、わが家の庭のツバキの枝中にいつのまにかスズメバチの巣。結構な数の働きバチが散発的に出入りをしています。巣の大きさは20cm強。向こうも私たちに気づかれてないと思ってるようなのでお互い知らんぷりでしばらく共存することにしました。11月過ぎればみんないなくなることでしょうから。コガタスズメバチかキイロスズメバチか検索して調べていたのですが今ひとつ決め手を欠いていたところでした。そこへ今日の死んだスズメバチ、生きたスズメバチの観察ができ会長の説明を拝聴してコガタスズメバチだろうと思っています。メールをしたのは、今日の観察会でどなたかとスズメバチの眼の話をしたのですが、その際間違ったことを言ってしまった。大きい黒い両眼を眼ではないと言ってしまったがこれは個眼からなる複眼だそうです。顔の中心にある三角形に並んだ3つの真っ黒いトキリマメのような眼は単眼だそうです。だからスズメバチは単眼複眼合わせて5個の眼を持っているとのこと。訂正してお詫びします。失礼しました。(10/23 長島)

◎異動等：(敬称略)

退会：湯川閑(9/27 逝去)、福間美恵子(逝去)、福間幹也(10/31)

寄付金：退会に伴い福間幹也様から寄付金として10/15に¥10,000振り込み入金下さいました。

◎編集後記：コロナ禍まだ続いています。8月会報発行は見送りになりましたが、その後例会が開催されるようになり、今号12月発行となりました。まだまだ感染症拡大防止対策ですね。みんなで頑張りましょう。編集や投稿に関して、お気軽にご意見などお寄せ下さい。(太田)

【諸連絡の窓口】 ◇会の代表者・会長：西畑敬一 072-876-8114

◇会費の納入・会計に関して：稲原良三 072-892-8507

◇会報の投稿・編集に関して：太田理 0743-79-9665 会員交流コーナーなども太田宛メールか郵送で送ってください。 ma36ux75ml@kcn.jp 〒575-0013 四條畷市田原台 7-5-2

北河内自然愛好会 年会費 1000 円 郵便振替 00970-4-103735

目次

第 422 回例会「穂谷のキノコ観察」栗田泰子	1
第 423 回例会「天王山・小倉神社付近の植物」田中光彦	3
第 424 回例会「私市・大阪市立大学附属植物園での観察」中野潤子	5
第 425 回例会「大和川の川原の石」田中光彦	7
《投稿》「湯川 閑さんとの出会い」田中光彦	8
会員交流コーナー	8
異動、編集後記	12
カラーグラビア版	別刷
例会案内	別刷